

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
第5学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人

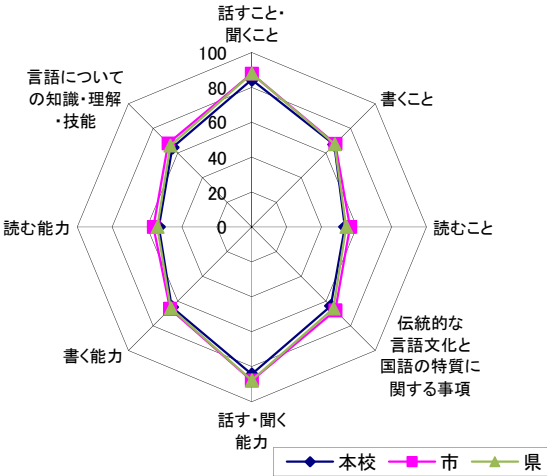
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	87.9	87.8
	書くこと	66.7	67.6	67.1
	読むこと	53.3	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.0	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	84.4	87.9	87.8
	書く能力	64.9	66.3	65.7
	読む能力	53.3	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	64.3	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

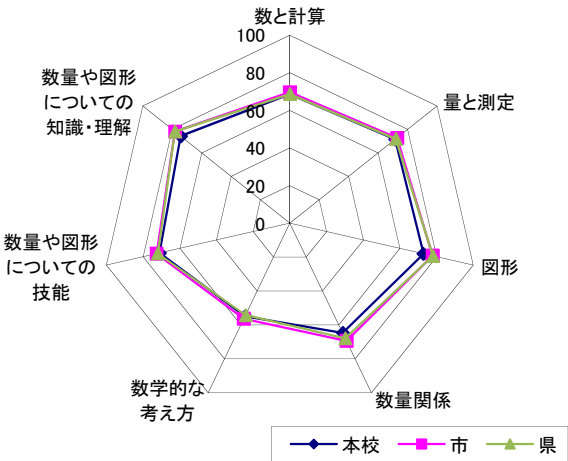
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は84.4%で市の平均を下回っている。 ○設問別に見ると、「話し方の工夫に気を付けて聞くこと」は、市の平均正答率とほぼ同率であった。 ●「互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くこと」は、正答率が低かった。	・日常の学校生活の中で、相手の話を集中して聞くようにさせ、話の内容をしっかりと聞き取ろうとする習慣をつける。 ・共通点や相違点に気付くことができるように自分の考えと比べながら聞こうとする習慣をつける。
書くこと	●平均正答率は66.7%で市の平均に比べるとわずかに低い。 ○設問別に見ると、招待する手紙で「お願いする言葉を書くこと」は市の正答率を大きく上回っており、身に付いているといえる。 ●「あいさつの言葉を書くこと」は正答率が低い。	・文章を書く際には、「はじめ」「なか」「おわり」の文章の構成を繰り返し確認し、構成のパターンを身に付けられるように指導していく。 ・児童が書きたくなるようなテーマや課題を提示できるように工夫し、書くことへの意欲を高められるように教材を工夫していく。 ・自分の考えや感想などを文章で表現する機会を多く設け、書く力を高めていく。
読むこと	●平均正答率は53.3%で、市の平均より3ポイント低い。 ●設問別に見ると、「図と話し合いの内容を関連付けた理解」についての正答率が低かった。 ○説明文の内容の理解においては、「目的や必要に応じて中心となる語をとらえること」の正答率が高かった。	・ブックトークや読み聞かせなどを通して読書を啓発し、読書量を増やしていけるように指導していく。 ・教科書の教材文の音読を通して、言葉をフレーズでとらえることに慣れさせ、短時間で内容を読み取っていく力を高めさせる。 ・授業では、指示語や文脈に気を付けて読む指導を今後も続けていき、読解の手掛かりになるような語句を自分で見つけられるようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は64.0%で、市の平均を下回っている。 ●漢字の読みでは、「平等」の正答率が低く、漢字の書きでは、「遠足」の正答率が低かった。 ●設問別に見ると、「ローマ字による書き方の理解」の正答率は市の平均を大きく下回っている。 ●国語辞典の正しい使い方の理解についても、市の平均正答率より5ポイント低かった。	・3年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。また、新出漢字を覚える際に、同音や同訓の既習の漢字や形の似た既習の漢字を提示して復習の機会を増やしていく。 ・ローマ字表を掲示するなど、日常的に見られるようにし、ローマ字の読み書きを宿題などに出して、ローマ字にふれる場を増やしながら復習により定着させていく。 ・国語辞典を日常的に使用できるようにさせる。

宇都宮市立昭和小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.6	69.6	68.7
	量と測定	71.5	72.8	72.0
	図形	72.8	77.8	78.0
	数量関係	64.6	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	54.9	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	71.0	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	74.2	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

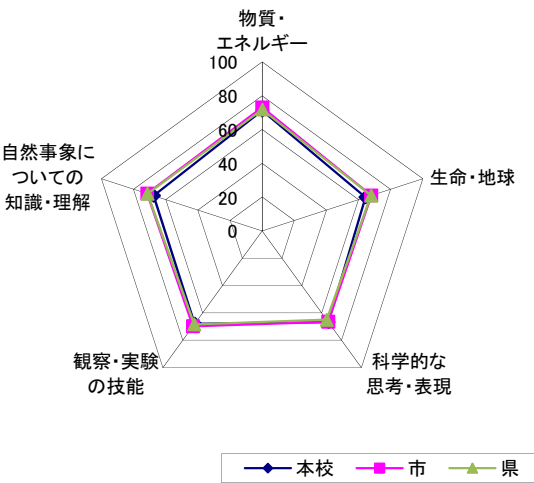
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は68.6%で市の平均をやや下回っている。 ○設問別にみると、「4位数－4位数＝4位数」、「3つの数の乗法を()を用いて表した式の意味を、場面と結びつけた説明を選ぶ」問題の正答率は、市の平均を上回っており、比較的良好であった。 ●「数の相対的な大きさ」、「小数のしくみ」の理解についての問題や、記述式の問題の正答率が、市の平均より低かった。	・既習内容がしっかり身に付くようプリントなどで定期的に復習の時間をとり、定着を図る。特に「大きな数」については、一の位から千兆の位までの表し方や、各位が十倍の関係にあることを再度確認し、「数の相対的な大きさ」の問題を重点的に復習し理解につなげたい。 ・記述式の問題については、全体的に苦手な傾向があるので、記述の仕方を例示しながら一緒に問題を解くことで書き方に慣れさせ、記述問題への苦手意識を軽減していきたい。
量と測定	●平均正答率は71.5%で市の平均をやや下回っている。 ●設問別にみると、「重さのはかりの読み取り」の正答率が市の平均を11ポイント下回っていた。 ●時と時刻では、「時間を比較する」問題の正答率が市の平均より13ポイントも高かったが、全体の正答率は46.7%と低かった。	・身近なものの重さを推測したりはかたりしながら、目盛りの読み取り方などを復習し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。 ・「時と時刻」については、数直線や時計の具体物を用いながら時間の求め方を復習し、理解を高めたい。
図形	●平均正答率は72.8%で市の平均を少し下回っている。 ●設問別にみると、「球の半径と直径の関係」、「二等辺三角形の定義」の理解について、正答率が市の平均より低かった。	・平面図形や立体については、授業で扱う時期も限られているので、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、知識や技能の定着を図る。 ・「球の半径」「球の直径」「二等辺三角形」などの言葉から、正しい図がイメージできるよう、復習する際には図を描かせるようにし、定着を図る。
数量関係	●平均正答率は64.6%で市の平均を少し下回っている。 ●設問別にみると、「棒グラフの読み取り」が県・市の平均を大きく下回っており、「□を使った文章問題を表した図の選択」についての問題も市の平均より9ポイント低かった。 ○「わり算の文章問題を表した図」の理解については、市の平均より4ポイント高かった。	・棒グラフを正しく読み取れるように、グラフの「たて軸・横軸が表すもの」や、「たて軸の一目盛の大きさ」について重点的に復習する。 ・「□を使った式と図」については、問題文から立式することに加え、図での表し方についても再度指導し、式と図の関係を理解できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.3	73.1	71.8
	生命・地球	64.3	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	66.8	66.5	65.0
	観察・実験の技能	67.9	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	67.5	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

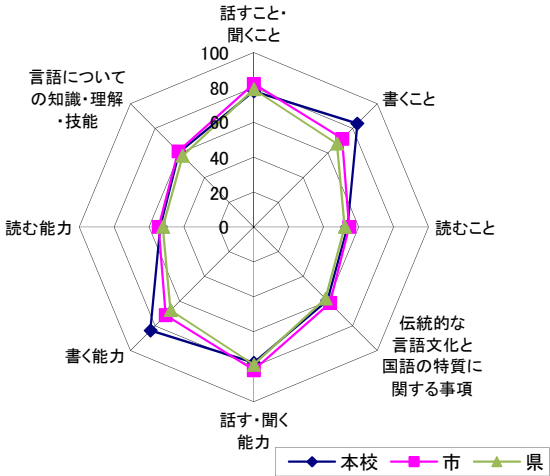
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は、71.3%で、市の平均より低い。 ●物の重さについて、条件を変えたときのてんびんのつり合いを考える問題の正答率が市よりも6ポイント低かった。 ○風やゴムの働きについては、市の正答率を大きく上回っている。実験結果から目的とする距離に適したゴムの伸びを水国する問題では市よりも11ポイント高く、十分に理解しているといえる。 ●光の性質については、虫眼鏡で光を集めたときの明るさや温度の違いの理解について、市全体でも57.6%と低かったが、本校はさらに正答率が低かった。 ○電気の通り道についての理解は、市の平均正答率より16ポイント高く80.0%の正答率であった。 ●磁石の性質の理解について、市の正答率よりも低い。	・実験結果から導かれた知識について十分理解されている単元とそうでない単元があるので、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、知識の定着を図る。 ・授業の初めに、学習問題をはっきりとわかるように提示し、毎回の学習や実験の目的をよく把握させて進めることにより、受け身ではなく児童自らが主体的に課題解決に向かえるようにさせる。また、予想を立てさせそれを検証していく過程を大切に、児童の興味関心が持続するような授業展開や教材を工夫していく。 ・理科で学習したこと、身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。
生命・地球	●平均正答率は、64.3%で、市の平均より低い。 ●昆虫と植物では、昆虫の変態と目的に応じた観察カードの書き方の理解について、正答率が低かった。 ●身近な自然の観察では、身の回りの生物の生息場所についての理由を含めた理解についての正答率が低い。 ○太陽と地面の様子では、方位磁針の正しい使い方について、市の平均正答率を上回っている。 ○地面の温度の正しい測り方や、日向の地面のようすについての理解は、正答率が市の平均よりも高い。	・身近な自然や事象について「なぜ」「どうして」と思うよう促したり、自分の目で確かめてみることをすすめたりし、科学的な興味関心を高めさせたい。 ・季節の変化について日常的に話題にし、温度、天体、草花や樹木、身近な生き物などの様子に気づく機会を増やしていく。 ・観察カードに記入する項目について復習し、観察する上で必要な観点についての理解を図る。 ・観察や実験に使用した器具や道具についての正しい使い方や使用上の注意について、確認し復習させる。

宇都宮市立昭和小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.8	82.0	78.9
	書くこと	83.8	71.5	67.4
	読むこと	53.6	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.5	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	77.8	82.0	78.9
	書く能力	83.8	71.5	67.4
	読む能力	53.6	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	60.4	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

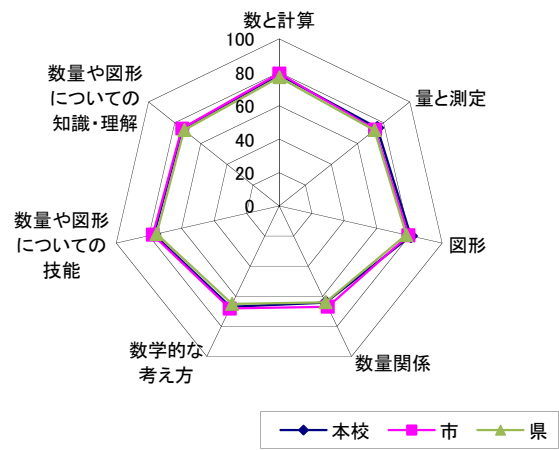
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は77.8%で市の平均を下回っている。 ○設問別に見ると、「話の中心に気を付けて聞くこと」に関する2問目では、正解率が98%を超え、県や市の平均正答率を上回っており、設問ごとの差が大きい。 ●「司会者の話し合いの進め方の工夫について理解している」に関する問題では、特に正答率が低かった。	・今後も国語の授業を中心に、他教科・学級活動等において、自分の考えをしっかりと伝えられるようにするとともに、相手の意図を考えて、話の中心を正しくつかむ聞き方の定着を図る。 ・話し合い活動では、児童に司会を経験させ、話し手の意見の類似点や相違点をまとめたり、話題に沿った話し合いが進むようにさせたり、工夫を考えさせていく。
書くこと	○平均正答率は83.8%と市の平均正答率を12%、県の平均正答率を16%上回った。 ○特に「2段落構成で文章を書くこと」が正しくできており、市の平均正答率を20%近く上回っていた。 ○文章を書くことに関する全ての項目で良好な結果を残すことができた。無解答になってしまう児童が少ないことが良い結果に結びついている。	・今後も、様々な場面や機会を利用して、自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現の技能を高めていく。 ・他教科での学習のまとめにおいても、最低限まとめることの助言をするなどまとめ方を身に付けさせる。また、読み手の感想を伝え合い、文章での表現活動に意欲的に取り組ませる。
読むこと	●平均正答率は53.6%でわずかに市の平均を下回っている。 ●「場面の様子を叙述を基にして読むこと」に関する設問で特に低い正答率で3割を割り込んでしまっていた。 ○物語の読解においては市、県の平均正答率よりも低いものの、説明文の読解ではおよそ市、県の平均正答率とほぼ同じほどであった。	・文学的文章の読解に積極的に取り組み、描かれている登場人物の正確や境遇、状況、気持ちや情景の移り変わりなどについて、優れた表現の仕方を味わいながら、丁寧に読み取っていくようにする。 ・読書を奨励し、読書を通して文学的な文章に親しみ、感想を述べ合ったり本を紹介し合ったりするような活動を計画的に行い、読解力を伸ばしていくようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は59.5%で市の平均を下回った。 ●昨年度の学習内容定着度調査の結果に引き続き、漢字辞典の使い方への理解が乏しい。 ○「慣用句の使い方の理解」に関しては、わずかに市、県の平均正答率を上回ることができた。	・引き続き、日常の国語の授業や家庭学習の中で、漢字辞典を引く機会を増やし、漢字辞典の引き方に慣れ、積極的に辞典を使う意識と習慣をつける。 ・読書を奨励し、多くの言葉に触れる機会を増やしていく。 ・常に声かけをし、既習の漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつける。

宇都宮市立昭和小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.6	79.3	77.1
	量と測定	75.0	73.4	72.9
	図形	80.9	79.4	78.0
	数量関係	64.2	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	67.1	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	76.9	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	74.1	74.5	72.8



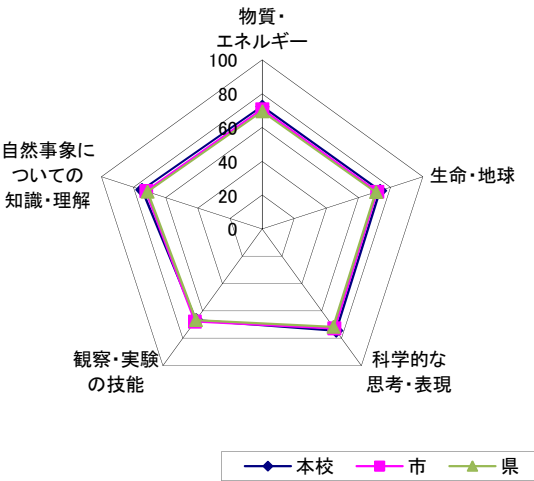
★指導の工夫と改善, ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は約78.6%で市の平均をやや下回っているが県の平均よりは上回っている。 ○設問別に見ると「整数のわり算」「分数のたし算」「小数と整数のかけ算」「小数のしくみ」は正答率が市の平均値を超えており、おおむねよくできていた。 ●「小数と整数のわり算」は58.8%とやや劣っている。	・小数と整数のわり算について復習し、わる数を整数に直してからわり算する方法や、その際の小数点の移動などを再度確認する。 ・わり算の商が小数の場合の計算についてもドリルなどを活用して繰り返し復習し、定着を図る。 ・分数の計算についても同分母分数の場合の計算を徹底し、答えを約分するなど分数の基礎の定着を図る。
量と測定	○平均正答率は75.0%で市の平均を上回っている。 ●設問別に見ると「面積の単位の関係」が45.1%と市の平均を10ポイントも上回っているが正答率が低かった。	・㎡とcm²の単位の関係を図を基にして再度確認するとともに、a(アール)やha(ヘクタール)など面積の単位を合わせて復習し、練習問題を活用して定着を図る。 ・身近にあるものの面積や角を推察し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。 ・「角の大きさ」については繰り返し復習し、鋭角や鈍角などの言葉も忘れないよう工夫する。
図形	○平均正答率は約80%であり、おおむね身に付いていると言える。 ○設問別に見ると「長方形の辺と辺の関係」「直方体の見取り図から平行な面を選ぶ」等、平面や立体に関する問題は比較的よくできていた。 ●「立方体の展開図」や「ひし形の作図」等、実際に作図に関する問題は比較的正答率が低かった。	・四角形や立体については学習時期を過ぎるとそれらの内容に触れる機会が少ないので、意図的に復習させるなどして知識や技能の定着を図る。 ・直方体や立方体の辺や面の垂直・平行の位置関係については重点的に復習し、定着を図る。
数量関係	●平均正答率は約64%で市の平均を少し下回っている。 ○設問別に見ると「文章問題から文字を使って立式し、それを解く」「四則計算で()を用いた式の計算の順序」に関する問題は比較的よくできていた。 ●「分配法則を使ったけいさんのきまり」「折れ線グラフと表」については正答率が低かった。	・計算のきまりについて繰り返し復習し、更なる定着を図る。 ・「棒グラフ」「折れ線グラフ」のそれぞれの特徴を確認し、それぞれのグラフを読み取るだけでなく、2つのグラフを見比べて考える問題なども取り入れて復習できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.5	70.8	69.5
	生命・地球	73.3	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	74.5	72.8	71.7
	観察・実験の技能	66.7	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	74.8	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は72.5%で、市の平均正答率より上回っている。 ○水が氷になると体積が増えることや水が沸騰した時の泡の正体は、正答率が市の平均を20%近く上回った。 ●空気と水の性質では空気や水を温めたときの体積の変化が正答率58.8%と低かった。 ●2個の乾電池の直列つなぎは、市の正答率が約40%と全体的に低かったが、本校では正答率が33.3%とさらに低かった。	・実験した内容を理解し、知識が身に付いている単元とそうでない単元があるので、単元の最後のまとめで、学んだことをもう一度振り替えられるようにしたり、内容を自分なりにまとめたりする時間を作り、知識の定着を図る。 ・今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、実験結果を予想させたり実験から考えられることを読み取らせたりして、なぜそうなるのか考えさせ、科学的思考力を養っていく。 ・学習した内容を日常生活の中で具体的に考えたりさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。
生命・地球	○平均正答率は73.3%であるが、市の平均正答率よりやや上回っている。 ○月と星の問題では正答率が高かった ●人の体のつくりと運動では、正答率は市の平均を上回っているが、人の背中がまるく曲げられる理由を問われた設問では正答率が35.3%と低かった。 ●季節と生物では、植物の種類によって冬の様子が異なることなど自然の事象を問題にした設問では正答率にばらつきがあった。	・人体など目に見えない内容の学習については、デジタル教科書などを活用し、実際に目で確認することでより印象に残るよう、教材の工夫をする。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。

宇都宮市立昭和小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

4学年

○学習面では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について肯定的回答が市全体より15ポイント高く、良好な家庭学習の習慣が身に付いているといえる。

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「むずかしい問題にであうと、やる気がでる」の肯定的回答が、いずれも市全体を上回っている。また、各教科ごとの質問において、すべての教科で「好き」と答えた割合が、市の平均より高いことから、学習意欲や学習に対する好奇心が高いと言える。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は91%と高く、教師への信頼度が高いことがうかがえる。

●「学校のきまりやマナーを守っている」の肯定的回答が市の平均よりも低い。

○家の人との対話については「学校での出来事」「将来のこと」「学習について」のどの項目でも市の肯定的回答より高い。家の人と何でも話せる豊かな家庭環境が整っていることがうかがえる。また、「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれる」「意見が合わないとき、自分の話を聞いてもらえる」についての肯定的回答も高い。

5学年

●学習面では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について肯定的回答が市全体より15ポイント近く低い。「家で授業の復習をしている」の肯定的回答は、市全体より13ポイントほど低い。「学習に対して進んで取り組んでいる」についての肯定的回答は市全体より14ポイントほど低い。社会科と音楽を除く全ての教科でその強化が好きな児童の割合が市全体と比較すると少ない。家庭での学習の習慣が未だ身に付いていない様子が見られ、学習に対しての積極性が育っていない。

●「1か月に、何冊くらい本を読みますか」の質問には、「1～2冊」と答えた児童が最も多く、全体に読書量が不足していることが伺える。しかしその一方、「11冊以上」と答えた児童の割合も高いことから、読書をする児童としない児童が二極化していると言える。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は84.3%と高く、また、「先生は学習のことについてほめてくれる」も肯定的回答86.2%と高い。教師への信頼度が高いことがうかがえる。

●「グループなどでの話し合いに進んで参加している」の質問に80.4%が肯定的な回答をするなど、グループでの学習への意識の高さが見られるが、教師への信頼が高いことも含めて、裏を返すと依頼心が強く、人頼みなところがある。

●市全体に比べて、TV視聴時間が長く、ゲームで遊ぶ時間も長い。睡眠時間が短く、毎日朝食を食べている児童の割合も少ないことがうかがえる。